

# 2016 年度大学院生対象 学修活動に関するアンケートの結果（報告）

IR センター教育情報分析室・FD 委員会

## I. アンケートの概要

2017 年 1 月に大学院生全学年を対象にユニパのアンケート機能を用いて実施した。アンケートは、回答者の属性(学年、学科)、東北福祉大学の教育に対する満足度、大学院に対する満足度、専門性・教育目標の達成と意欲の伸び（以下「専門性等」と表記）、学修行動時間、大学院生活における不安や悩みに関する項目より構成されている。全体で 23 名の回答が得られた（回答率 33.82%）。

## II. 全体の傾向

### 1. 回答者の属性

回答者の学年別の専攻構成を表 1 に示す。今回のアンケートでは博士課程に在籍する学生からの回答は得られなかった。

表1 専攻と学年

	M1	M2	合計
総合福祉学研究科社会福祉学専攻	0	5	5
総合福祉学研究科福祉心理学専攻福祉心理分野	0	1	1
総合福祉学研究科福祉心理学専攻臨床心理分野	9	3	12
教育学研究科教育学専攻	2	3	5
合計	11	12	23

### 2. 大学院の教育に対する満足度

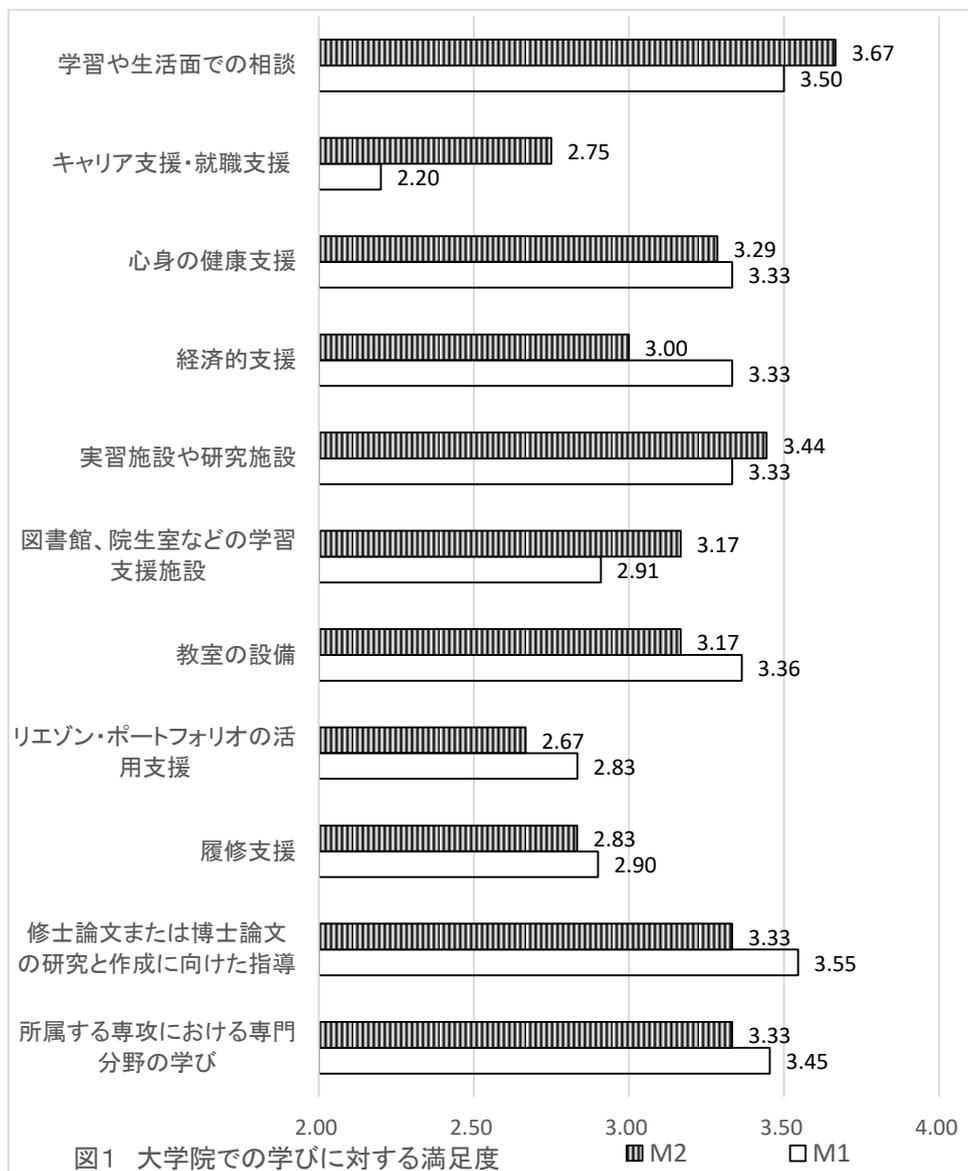
満足度に関する項目は「満足、やや満足、やや不満、不満」の 4 件法にて回答を求めたが、それに加えて項目により「取り組んでいない、利用していない」という選択肢を設けた。各項目での「取り組んでいない」「利用していない」という回答について集計を行った結果を表 2 に示した。なお、数値が入っていない項目はそのような回答をしたものがないことを示す。結果、「リエゾン・ポートフォリオの活用支援、経済的支援、キャリア支援」について「利用していない」という回答が多いことが明らかとなった。

表2 大学院での学びの満足度項目において「取り組んでいない、利用していない」と答えた人数と割合

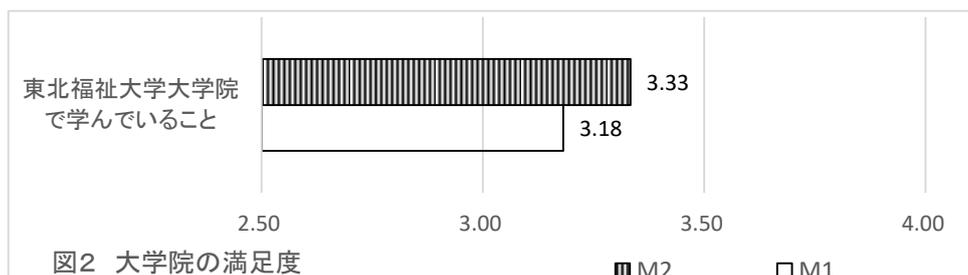
		所属する専攻における専門分野の学び	修士論文または博士論文の研究と作成に向けた指導	履修支援	リエゾン・ポートフォリオの活用支援	教室の設備	図書館、院生室などの学習支援施設	実習施設や研究施設	経済的支援	心身の健康支援	キャリア支援・就職支援	学習や生活面での相談
M1	人数	-	-	1	5	-	1	2	5	2	6	1
	%	-	-	9.09%	45.45%	-	9.09%	18.18%	45.45%	18.18%	54.55%	9.09%
M2	人数	-	-	0	3	-	1	3	4	5	4	0
	%	-	-	0.00%	25.00%	-	8.33%	25.00%	33.33%	41.67%	33.33%	0.00%
合計	人数	-	-	1	8	-	2	5	9	7	10	1
	%	-	-	4.35%	34.78%	-	8.70%	21.74%	39.13%	30.43%	43.48%	4.35%

次いで、各項目での「取り組んでいない」「利用していない」という回答をした者を除外した上で集計した各項目の満足度を図1に示す。なお、満足度の得点範囲は1～4であり、得点が高いほど満足していることを示す。

「専門分野の学び」「論文の作成に向けた指導」「学習や生活面での相談」など学習に関する項目の満足度は評定値3.0を超える高さであった。M1のキャリア支援・就職支援のみ評定値2.5を下回り、不満足側によった評定であることが示された。

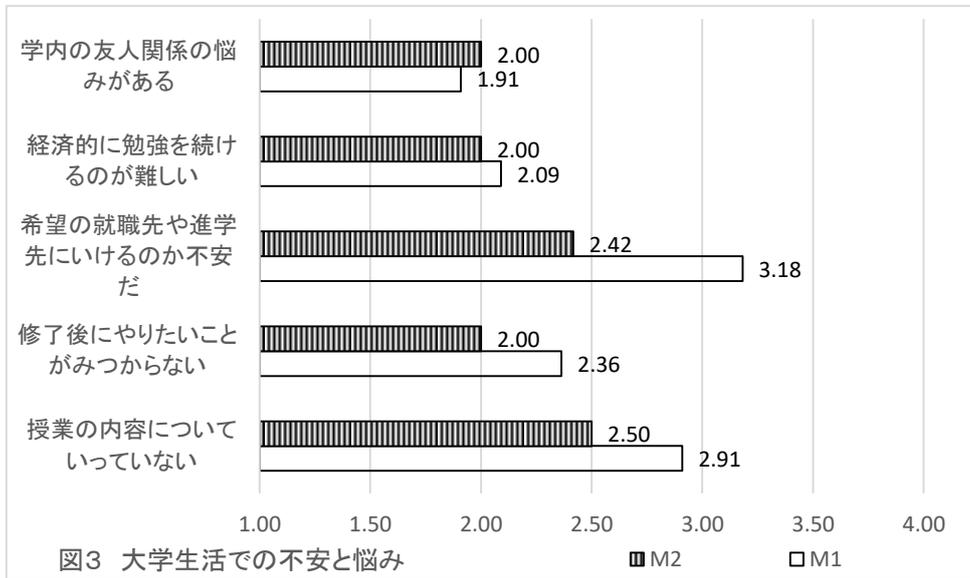


続いて、大学院に対する満足度を図2にまとめた。



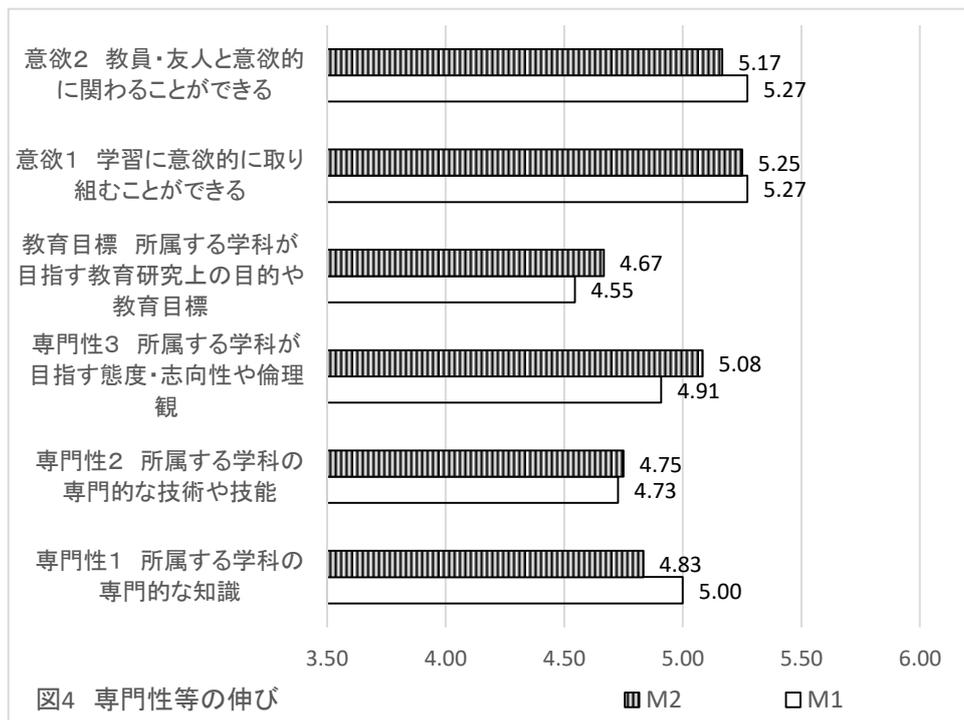
### 3. 大学院生活における不安や悩み

大学生活についての不安や悩みに関する項目の集計経過を図3に示す。なお、回答は「(悩み・不安が大いにあった)から「全くなかった」までの4件法(得点範囲は1～4)であり、得点が高いほど不安である/悩んでいることを示す。結果、M2では全項目で評定値は2.5を下回り悩んでいない/不安がない側へとよった回答であったが、M1ではおける就職・進学に関する不安が相対的に高いことが示された。



### 4. 専門性等の伸び

入学時と比した専門性等の伸びについて、図4に示す。回答は項目に示す内容ができるようになったことに対して「非常にそう思う」から「まったくそう思わない」までの6件法(得点範囲1～6)であり、得点が高いほど伸びを示したことを示す。結果、すべての項目において評定値が4.0を超えており、伸びに関して感じている傾向が示された。学年での差異は特に認められなかった。



## 5. 学修行動時間

1週間当たりの諸活動にあてる時間について表3-1～3-8にまとめた。各項目において割合上位の2つの時間帯を太字にしている。結果、M1では授業及びその予復習にかける時間が多く、M2では論文執筆にかける時間が多いということが示された。

表3-1 活動時間：授業に出席する

		1時間未満	1～5時間台	6～10時間台	11～15時間台	16～20時間台	21～25時間台	26～30時間台	31時間以上	合計
M1	人数	0	2	2	2	3	1	1	0	11
	%	0.00%	<b>18.18%</b>	<b>18.18%</b>	<b>18.18%</b>	<b>27.27%</b>	9.09%	9.09%	0.00%	100.00%
M2	人数	2	6	3	0	0	0	0	1	12
	%	16.67%	<b>50.00%</b>	<b>25.00%</b>	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	8.33%	100.00%
合計	人数	2	8	5	2	3	1	1	1	23
	%	8.70%	34.78%	21.74%	8.70%	13.04%	4.35%	4.35%	4.35%	100.00%

表3-2 活動時間：履修している授業の予習や復習をする

		1時間未満	1～5時間台	6～10時間台	11～15時間台	16～20時間台	21～25時間台	26～30時間台	31時間以上	合計
M1	人数	1	7	1	1	1	0	0	0	11
	%	<b>9.09%</b>	<b>63.64%</b>	<b>9.09%</b>	<b>9.09%</b>	<b>9.09%</b>	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
M2	人数	2	8	2	0	0	0	0	0	12
	%	<b>16.67%</b>	<b>66.67%</b>	<b>16.67%</b>	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
合計	人数	3	15	3	1	1	0	0	0	23
	%	13.04%	65.22%	13.04%	4.35%	4.35%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%

表3-3 活動時間：大学の授業・予習・復習以外の学習

		1時間未満	1～5時間台	6～10時間台	11～15時間台	16～20時間台	21～25時間台	26～30時間台	31時間以上	合計
M1	人数	1	4	3	3	0	0	0	0	11
	%	9.09%	<b>36.36%</b>	<b>27.27%</b>	<b>27.27%</b>	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
M2	人数	2	5	3	0	0	1	0	1	12
	%	16.67%	<b>41.67%</b>	<b>25.00%</b>	0.00%	0.00%	8.33%	0.00%	8.33%	100.00%
合計	人数	3	9	6	3	0	1	0	1	23
	%	13.04%	39.13%	26.09%	13.04%	0.00%	4.35%	0.00%	4.35%	100.00%

表3-4 活動時間：ボランティア活動をする

		1時間未満	1～5時間台	6～10時間台	11～15時間台	16～20時間台	21～25時間台	26～30時間台	31時間以上	合計
M1	人数	11	0	0	0	0	0	0	0	11
	%	<b>100.00%</b>	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
M2	人数	11	1	0	0	0	0	0	0	12
	%	<b>91.67%</b>	<b>8.33%</b>	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
合計	人数	22	1	0	0	0	0	0	0	23
	%	95.65%	4.35%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%

表3-5 活動時間：アルバイト・仕事をする

		1時間未満	1～5時間台	6～10時間台	11～15時間台	16～20時間台	21～25時間台	26～30時間台	31時間以上	合計
M1	人数	2	1	2	4	0	1	0	1	11
	%	<b>18.18%</b>	9.09%	<b>18.18%</b>	<b>36.36%</b>	0.00%	9.09%	0.00%	9.09%	100.00%
M2	人数	3	1	1	1	1	1	1	3	12
	%	<b>25.00%</b>	8.33%	8.33%	8.33%	8.33%	8.33%	8.33%	<b>25.00%</b>	100.00%
合計	人数	5	2	3	5	1	2	1	4	23
	%	21.74%	8.70%	13.04%	21.74%	4.35%	8.70%	4.35%	17.39%	100.00%

表3-6 活動時間：新聞やネット上のニュースサイト等で時事問題・社会問題・地域問題等の新しい情報をチェックする

		1時間未満	1～5時間台	6～10時間台	11～15時間台	16～20時間台	21～25時間台	26～30時間台	31時間以上	合計
M1	人数	2	7	2	0	0	0	0	0	11
	%	18.18%	63.64%	18.18%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
M2	人数	2	7	0	2	1	0	0	0	12
	%	16.67%	58.33%	0.00%	16.67%	8.33%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
合計	人数	4	14	2	2	1	0	0	0	23
	%	17.39%	60.87%	8.70%	8.70%	4.35%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%

表3-7 活動時間：修士論文や博士論文に向けた準備や研究、執筆をする

		1時間未満	1～5時間台	6～10時間台	11～15時間台	16～20時間台	21～25時間台	26～30時間台	31時間以上	合計
M1	人数	3	7	0	0	0	1	0	0	11
	%	27.27%	63.64%	0.00%	0.00%	0.00%	9.09%	0.00%	0.00%	100.00%
M2	人数	0	3	3	0	0	0	1	5	12
	%	0.00%	25.00%	25.00%	0.00%	0.00%	0.00%	8.33%	41.67%	100.00%
合計	人数	3	10	3	0	0	1	1	5	23
	%	13.04%	43.48%	13.04%	0.00%	0.00%	4.35%	4.35%	21.74%	100.00%

表3-8 活動時間：専門教育以外のキャリア形成活動

		1時間未満	1～5時間台	6～10時間台	11～15時間台	16～20時間台	21～25時間台	26～30時間台	31時間以上	合計
M1	人数	10	1	0	0	0	0	0	0	11
	%	90.91%	9.09%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
M2	人数	7	3	0	1	1	0	0	0	12
	%	58.33%	25.00%	0.00%	8.33%	8.33%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
合計	人数	17	4	0	1	1	0	0	0	23
	%	73.91%	17.39%	0.00%	4.35%	4.35%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%

## 5. 学修行動時間と学士力等の伸びの関連

学年別に学修行動時間と学士力等の伸びの関連をまとめた結果を表 6-1 から表 6-4 に示す。各表では有意な順位相関係数が.20 を超える箇所を太字としている。両学年とも関連を示す項目は少なかった。M1 では負の関連を示す項目も見られている。

表4-1 専門性等の伸びと諸活動時間の関連 M1

	授業時間	予復習時間	予復習以外学修時間	ボランティア時間	アルバイト時間	新聞ニュース時間	論文執筆時間	キャリア形成時間
専門性1 所属する学科の専門的な知識	-.12	-.06	.60	—	-.27	-.50	-.22	-.52
専門性2 所属する学科の専門的な技術や技能	.16	-.09	<b>.63*</b>	—	-.30	-.53	-.25	.00
専門性3 所属する学科が目指す態度・志向性や倫理観	-.17	.00	.21	—	-.17	.00	.00	<b>-.74**</b>
教育目標 所属する学科が目指す教育研究上の目的や教育目標	-.29	-.01	.46	—	.17	-.46	.06	-.54
意欲1 学習に意欲的に取り組むことができる	-.37	-.19	.44	—	.27	-.45	.11	-.17
意欲2 教員・友人と意欲的に関わることができる	-.53	<b>-.64*</b>	.14	—	.00	-.50	-.29	-.22

表4-2 専門性等の伸びと諸活動時間の関連 M2

	授業時間	予復習時間	予復習以外学修時間	ボランティア時間	アルバイト時間	新聞ニュース時間	論文執筆時間	キャリア形成時間
専門性1 所属する学科の専門的な知識	-.19	-.18	.38	.48	.04	.26	.31	-.09
専門性2 所属する学科の専門的な技術や技能	-.36	.00	.23	.17	.20	.09	-.15	-.03
専門性3 所属する学科が目指す態度・志向性や倫理観	.07	-.47	.44	.44	-.02	.24	.29	-.23
教育目標 所属する学科が目指す教育研究上の目的や教育目標	-.33	-.16	.29	.53	-.03	.07	.26	-.10
意欲1 学習に意欲的に取り組むことができる	.18	-.52	.24	.40	-.14	.05	.16	-.20
意欲2 教員・友人と意欲的に関わることができる	.54	-.23	-.17	-.10	-.46	-.55	.06	-.27

## 6. 大学院への満足度を説明する要因の検討

大学院への満足度を説明する要因を検討するため重回帰分析を行った(表5)。説明変数には、専門性等6項目を合計して尺度化したもの(以下、専門性等)、大学生活での悩み・不安5項目を合計して尺度化したもの(以下、不安)、大学院での学習の満足度11項目を合計して尺度化したもの(以下、学習満足)を用いた。結果、学年別・全体での分析のすべてで有意な偏回帰係数が示されず、上記の要因で満足感を説明することはできなかった。

表5 大学院満足を被説明変数とした重回帰分析結果

	説明変数の偏回帰係数			決定係数	人数
	学習満足	専門性等	不安		
M1	.46	.39	.35	.67	8
M2	.42	.42	.33	.49	9
全学年	.47	.35	.29	.51	17

\*\* p<.01 \* p<.05